

学 園 の 歌

観音寺第一高等学校
昭和25年制定

作詞 藤田 邦衛 作曲 小野 清吉

あ さ ひ に ~ は ゆ る きょ こ ~ ざ ん ゆ う
ひ は ~ も ゆ る ひ う ち な だ
こ こ せ い さ ~ ん の い っ か く に つ ど い て う た わ ん が く ~ え ん ~
の あ あ ~ ア よ ろ こ び の れ い め い を

学 園 の 歌

- 一、朝日に映ゆる巨麓山
夕日は燃ゆる燧灘
こゝ西讃の一角に
集いて謳わん 学園の
あゝ 歎びの黎明を
- 二、野をさ緑に彩りて
滔々とゆく財田川
涯なき流れを望みつ
集いて建てん 学園の
あゝ 輝ける伝統を
- 三、琴弾く磯の松風に
北斗の影は清く冴え
仰ぐ瞳に夢熱く
集いて讃えん 学園の
あゝ 永久の栄光を

「学園の歌」観一高草創期の憶い出

第三回(昭二十七)卒 柳川(藤田) 邦衛

過日、東京で三宅同窓会長とお会いする機会があり、母校の創立百周年記念誌が話題となった。その折り、三宅会長から「旧制の三豊中学から観音寺第一高校への移行期に、新しい校歌の募集があつて、確か柳川さんの応募歌詞が入選しましたよね。最近では殆ど歌われていないようですが、あの『学園の歌』は校史に残る記念碑として今度の周年誌にその思い出を書かれてはいかがですか」と大変光栄あるお勧めを頂いた。

あれは旧制三豊中学に入学した私達が、新制三豊高校を経て観音寺第一高校の二年生になった昭和二十五年(一九五〇年)であつた。校内募集で私の作詞が幸運にも一席入選し、当時芸大卒で母校に赴任されていた新進気鋭の小野清吉先生の作曲により『学園の歌』として十月の文化祭で全校発表会が行われた。

当時はバンカラな旧制高校的風潮がまだ校内で幅を利かせていた頃であり、旧制三豊中学に入学した在校生には多分に旧制高校への郷愁みたいな憧れ意識が残っていたように思う。私自身も内心では旧制高校の寮歌をイメージしながら作詞したものだった。が、小野先生の曲は、寮歌風の悲歌慷慨調ではなく、戦中の暗い時代を脱け出し、明るい自由と平和の新時代を予感させる若々しい新鮮さに溢れていた。その時の私は「旧制高校の寮歌をイメージしていたのだけだなあ……」などと生意気な感想を洩らしたりしていた。然しあの曲の素晴らしさはその後の歴史が証明してくれたと思う。あれから六十年を経た二十一世紀の今日においても、この曲はフレッシュな清新さを失わず、新しい時代に生きる名曲であると今も感服しており、小野先生には心から感謝している次第であります。

今回、三宅会長のお勧めで奇稿の名誉を頂いたのですが、これを機に、願わくはこの素晴らしい名曲が何らかの形で小野先生(九州にてご健在)にもお出まし願うなどして、近い将来もう一度母校でお披露目できる機会が実現できたら、などという夢は少し欲張り過ぎでしょうか。